中京学院大学看護学部
紀要　第４巻第１号
2014年３月発行

〈資料〉

看護基礎教育における陰部洗浄の看護技術教育の現状と課題

A Literature Review on Teaching Methods of Private Parts Washing in Basic Nursing Education

早川真奈美・中村恵子・古田雅俊
Manami Hayakawa, Keiko Nakamura and Masatoshi Furuta

要　旨

本報告では，プライバシーを損なう看護技術であり，かつ難易度が高い陰部洗浄に関して，看護学生が困難を感じる要因について文献を概観し，教育方法の検討をした．看護学生が陰部洗浄を困難と感じる要因について，「教育内容・教育方法との関連」「受け持ち患者の状況に応じた技術との関連」「陰部洗浄実施の状況（経験値）との関連」「セクシュアリティとの関連」の４つのカテゴリが形成された．講義や校内実習では，対象が女性に偏重した教育がなされ，かつ便器を使用した方法を多く用いている．臨地実習では，想定以上の患者の状況があるため難易度が高く，主体的実施の経験を積むことは難しい．さらに，陰部洗浄実施に学生は，自身のセクシュアリティが揺るがされたり，患者のセクシュアリティを冒すかもしれないことに困惑しており，配慮が必要であることが明らかとなった．今後，学内における看護技術教育について，検討していく必要性が示唆された．

キーワード：看護基礎教育，陰部洗浄，看護技術，看護学生，文献検討

Ⅰ．はじめに

近年の臨床看護の場では，医療の高度化，患者の高齢化・重症化，平均在院日数の短縮化等により，看護業務が多様化・複雑化し，密度が高くなってきており（厚生労働省，2003），看護実践能力の強化が急務となっている．しかしながら，患者の人権への配慮や医療安全確保のための取り組みも重視される中で，学習途上にある学生が行う看護技術実習の範囲や機会が限定されてきており（厚生労働省，2003），習得することが困難とされる看護技術がある．

2002年の「看護学教育の在り方に関する検討会」報告によれば，学士課程での看護実践能力の育成に欠くことのできない看護基本技術の学習項目の，清潔・衣生活援助技術の中に，部分浴・陰部ケアが挙げられている（文部科学省高等教育局医学教育課，2002）．本研究では，部分浴と併記された陰部ケアは，主に陰部洗浄を示すものと解釈する．陰部洗浄は，患者のプライバシーを損なう看護技術の一つであり，視聴覚教材では，実物を視覚で捉える事は可能であるが，看護技術演習においては，学生自身の身体を使って体験することは学生の人権が損なわれる恐れがあり，学生のプライバシー保護の観点から，陰部モデルを使用し，学生同士のロールプレイを行うという演習形態をとるところが多い．さらに，平成19年の「看護基礎教育の充実に関する検討会報告書」において，陰部ケアの卒業

時の到達レベルは，「指導のもとで，実施できる」とされている（厚生労働省，2007）．このような中で，初めて陰部洗浄を実施するのは，臨地実習での受け持ち患者ということになる．看護系大学４年生に対して行った調査で，臨地実習において看護技術を実施する際に緊張する看護技術項目は，80％以上の学生が部分浴・陰部洗浄であった，と報告している（奥・臺藏・ 鏡宮・小池，2012）．さらに，高橋と内田（2013）の報告では，看護系大学３年生の在宅看護学実習における「陰部洗浄」の経験について，主体的実施：39.1%，補助的実施：32.8%，見学：26.6%，機会なし：1.6%となっている．

陰部洗浄は，患者の状況によって，難易度が異なる．臨地実習において，主体的に実施できる場合もあれば，補助的もしくは見学にとどまってしまうという現状にある．

さらに陰部洗浄は，1986年の看護技術テキストに，全身清拭の際に外陰部は洗浄するのもよいという記述はあるが，方法が具体的に示されたのは1997年であり，歴史的に新しい技術である，と述べられている（浅井・三木・岩瀬・佐々木，2009）．身体の中で，陰部は一番汚染しやすく，臨地では患者の高齢化も相俟って頻回に行われるケアでありながら，陰部洗浄の教育に限局した研究が少ないのが現状である．

今回，陰部洗浄の看護技術教育に関する文献を概観し，看護基礎教育における陰部洗浄の看護技術教育の現状と今後の教育方法について考察する．

Ⅱ．研究目的

プライバシーを損なう看護技術であり，かつ陰部ケアの中で難易度が高い陰部洗浄に関して，看護学生が困難を感じる要因について文献を概観し，教育方法の検討をする．

Ⅲ．用語の定義

陰部ケア：排泄物，分泌物等で不潔になりやすい陰部の清潔を保持し，爽快感を得るケアの総称．陰部清拭，陰部洗浄（便器を用いた方法，おむつを用いた方法），洗浄トイレ装置による洗浄を包含する．

陰部洗浄：排泄物，分泌物等で不潔になりやすい陰部を，湯や洗浄剤を使用し，便器やおむつを挿入した状態で洗浄する．

Ⅳ．研究方法

医学中央雑誌Web版Ver.５を使用し，2002～2013年７月にかけて，キーワード「陰部洗浄」「陰部ケア」「看護技術」「看護基礎教育」「看護学生」をすべて組み合わせて検索された文献（会議録は除く）を対象とした（文献検索日７月31日）．さらにタイトルと要旨の内容を確認し，本研究目的とは関連性のない文献は除外し，分析対象とした．

抽出された文献の年次推移，及び看護学生にとって陰部洗浄が困難とされる要因に焦点を当て，内容の類似性に基づき分類し，看護基礎教育における陰部洗浄の現状と今後の教育方法について考察する．

Ⅴ．結果

文献検索の結果，文献数は95件であった．さらにタイトルと要旨の内容を確認し，本研究目的とは関連性のない文献は除外して，67件を抽出し，原著論文20件を分析対象とした．

１．陰部洗浄に関する文献数及び年次推移

看護学教育の在り方に関する検討会報告書が提示された2002年以降2013年７月までの文

献を検索・抽出し，その結果を年次別にまとめた．

過去12年間の論文67件の種類別内訳は，原著論文20件（29.8%），解説24件（35.8%），解説/特集19件（28.35%），Q&A　３件（4.5%），図説１件（1.5%）であった．臥床患者で，おむつの装着や，尿管カテーテルが挿入されている場合の陰部洗浄方法・留意点に関する解説および解説/特集が多くを占めている．

２．陰部洗浄が困難とされる要因

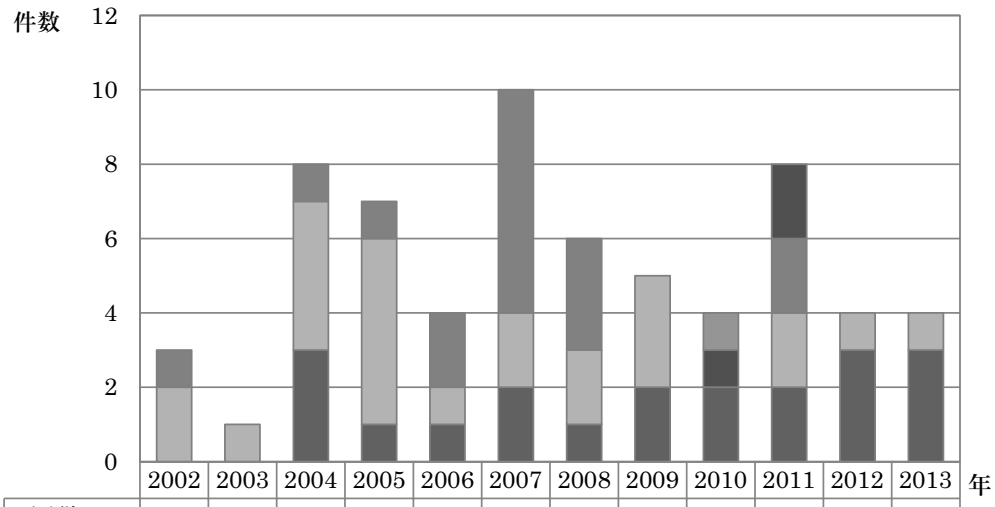
分析対象となった原著論文20件を，内容の類似性に基づき，「教育内容・教育方法との関連」「受け持ち患者の状況に応じた技術との関連」，「陰部洗浄実施の状況（経験値）との関連」，「セクシュアリティとの関連」の４つに分類した．

（１）教育内容・教育方法との関連

①学習教材

看護技術のテキスト，視聴覚教材について調査した文献は延べ２件であった．

浅井他（2009）によると，看護技術テキスト12冊中，清潔の単元の中で，陰部洗浄を独立した項目としてあげているのは６冊で，他は部分浴の中に含まれていた．さらに，陰部の構造・機能の記述があったものは４冊であった，と報告されている．他にも看護技術テキストで，便器を用いた方法とおむつを用いた方法では，便器を用いた方法の記載が多かった（山本・ 松原・小平・笠岡・松尾・柳澤・神山，2013）．加えておむつを用いた方法は，便器使用による体勢の不安定さ，仙骨部の疼



	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
図説	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
Q&A	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
解説/特集	1	0	1	1	2	6	3	0	0	2	0	0
解説	2	1	4	5	1	2	2	3	0	2	1	1
原著論文	0	0	3	1	1	2	1	2	2	2	3	3

図　論文種別文献数の年次推移（2002～2013年）

＊１　2013年７月31日までに医中誌 Web Ver.５に登録されているものに限る．

表1　分析対象文献一覧（教育内容・教育方法）

カテゴリ	文献No.	文献名（西暦発行年）	著者名	研究目的	対象	調査内容（方法/結果）
教育内容・教育方法	1	床上臥床状態にある患者への看護技術「陰部洗浄」に関する学習教材の状況（2013）	山本 洋子ほか	床上臥床状態にある患者に対する看護技術「陰部洗浄」の看護実践能力を高めるための看護技術修得支援プログラムを作成する基礎資料となる「陰部洗浄」に関する実態調査を行う.	2000～2010年の書籍，視聴覚教材	方法：書籍，視聴覚教材を抽出し，陰部洗浄の①タイミング②使用物品③手順④方法の根拠について内容を比較した. 結果：「陰部洗浄を行うタイミング」について記載のあるものは少なく，表記内容は，排泄等で汚れた時とするものがほとんどであり，便器を使用する方法が基本として記載されていた．便器およびオムツ以外で使用されている物品の記載内容には大きな違いはなかった．しかし，臨床で必要とされているスタンダードプリコーション(標準予防策)に関する物品の記載のないものが多かった．陰部洗浄の手順において，女性に行う方法は大まかな記載が多く，男性の場合は具体的な部位および手順があるものが多かった．また，「便器を使用するのか，オムツを使用するのか」以外の陰部洗浄方法に関して明確な根拠を記載した教材はほとんどみられなかった.
	2	看護短期大学1年次生の基礎看護技術の習得に対する自信度の推移（2012）	佐久間 佐織ほか	看護短期大学1年次生の基礎看護技術の習得に対する自信度の推移について検証する.	看護短期大学1年次生89名	方法：基礎看護技術の授業進度(①基礎Ⅰ前②基礎Ⅰ終了時③基礎看護学授業終了時（基礎Ⅱ実習前）④基礎Ⅱ実習後)ごとに質問紙調査を実施．31項目の看護技術項目のうち技術テストを実施した「リネン交換」「車いす移乗」「寝衣交換」「おむつ交換」「全身清拭」「陰部洗浄」「バイタルサイン測定」「導尿」の8項目について学生の自信度を時期ごとに集計した. 結果：技術テストを行った項目（陰洗）は自信度が高かった．基礎看護学実習Ⅱ前後での自信度の変化は無く，実習での経験の前後では，自信度は高くならなかった.
	3	臨地実習において看護学生が経験した看護技術に対する緊張（2012）	奥 百合子ほか	看護学生が臨地実習で看護技術を実施する際に，どの程度の緊張がみられるか明らかにする.	A看護系大学の4年生80名	方法：質問紙調査（臨地実習での看護技術の実施経験とその際の緊張度）　基本的な看護技術81項目について臨地実習での実施状況とその際の緊張の程度について評価を求めた. 結果：臨地実習で80%以上の学生が実施した看護技術は81項目中，環境調整技術，清潔・衣生活援助技術，活動・休息援助技術，安楽確保の技術，安全管理の技術など36項目であった．この36項目の中で緊張の程度が高かった上位3項目は，沐浴，入浴介助，部分浴・陰部ケアであった.
	4	看護基礎教育における性に関する学習　セクシュアリティの視点から陰部洗浄の授業内容を分析する（2012）	水野 昌子ほか	看護基礎教育課程において陰部洗浄を教授する際にどのように教育が実施されているのかを明らかにする.	全国の日本看護学校協議会に属する349校の陰部洗浄の授業担当者	方法：質問紙調査 結果：1.陰部洗浄の授業はほとんどが1年前期もしくは後期に設定．1年次の基礎看護学実習に陰部洗浄の実施が組み入れられていた．2.女性陰部洗浄はデモ８割あり男性は5割．女性の陰部洗浄重視の教育が展開されていた．3.校内演習は，ほとんどの学校で実施されていたが，実施していない学校も1割あり，学生の8割は，異性の陰部洗浄の校内演習を行っていなかった．4.陰部洗浄の実施上の留意点は，第1因子「陰部洗浄時の勃起に対しセクシュアリティを封印するコミュニケーションと態度」，第2因子「陰部洗浄によって引き起こされる反応の応用的教育内容」，第3因子「陰部洗浄によって引き起こされる反応の基礎的教育内容」，第4因子「対象の特徴にあわせた陰部洗浄」，第5因子「陰部洗浄におけるインフォームドコンセント」，第6因子「陰部洗浄における陰部の汚れの特徴」の6因子が探索された.
	5	模擬便使用による高齢者のおむつ交換体験からの学生の学び　校内実習終了後のアンケート調査を通して（2011）	太田 淳子ほか	看護学生の模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換体験の学習効果と学生が「どこに戸惑い」「どこが困難なのか」「何に気づき」「何を学んでいたのか」について明らかにする.	A看護専門学校(3年課程)2年生86名	方法：模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換体験後質問紙調査 結果：看護師役体験から，手技の未熟さや基本的手順を習得していないこと，周囲に目を向ける余裕の無さ，排泄物(模擬便)を見た時の精神的衝撃に学生は戸惑い，清潔・不潔を意識して行うこと，新しいおむつ・リネン類など周囲へ便汚染しないような手技・配慮に困難さを感じていた．患者役体験から「羞恥心」「不快感」「不安」「早く終わってほしい」「申し訳ない」「配慮」の気づき・学びを得ていた．模擬便を使用した陰部洗浄・おむつ交換体験に対して80%以上の学生から肯定的意見と70%以上の学生から臨地実習で役立つと回答を得られた.
	6	日米における陰部洗浄の看護技術テキストに関する研究　看護技術の概念規定を構成する要素を用いた内容分析（2011）	浅井 直美ほか	看護基礎教育における陰部洗浄の技術教育内容を検討するため，ﾃｷｽﾄの陰部洗浄に関する記述内容の特徴を明らかにする.	日米のﾃｷｽﾄ	方法：ﾃｷｽﾄ１２冊抽出し，「看護技術の目的」「看護技術展開の基盤」「看護技術展開上の特徴」「看護技術の種類」に基づき，類似性に基づき分析した. 結果：ﾃｷｽﾄ１２冊中，陰部洗浄を独立した項目に挙げてるのは日本では6冊他は部分浴として陰部の清潔の項目に含まれていた．①陰部洗浄の目的：感染予防，尿路感染予防，二次感染予防，心を癒す，爽快感を得る，臭気を予防する，陰部が清潔になる．②看護技術展開の基盤：洗浄する部位の解剖図が記載されていない，清潔の単元の中に陰部洗浄の項目として独立していないものもあった.
	7	基礎看護学実習における清潔援助の実施状況および認識　基礎看護学実習終了後のアンケート調査より（2005）	島村 純子ほか	基礎看護学実習における清潔援助の実施状況と学生の認識を明らかにする.	看護専門学校1年生39名	方法：質問紙調査 結果：,基礎看護学実習Ⅱでは,清拭は100%,陰部洗浄は90%以上の学生が実施している．授業と実習の違いについて,陰部洗浄では「使用物品」について,違いを認識していることが分かった.
	8	基礎看護学実習における学生の感染予防に対する動機づけ　実習終了後の意識調査を通して（2004）	窪田 マキほか	初めての臨地実習となる基礎看護実習における学生の感染予防の動機づけを明らかにする.	看護専門学校1年生	方法：質問紙調査 結果：,学内での講義・演習と臨床での違いを大きく感じた感染予防技術として,「環境整備(ベッドメーキングを含む)」「陰部洗浄」「汚物の取り扱い」が上位に挙げられた.
	9	試作看護技術シミュレーターを用いた基礎看護技術教育の評価　「浣腸」「導尿」の演習を通して（2004）	本多 容子ほか	陰部洗浄の演習で使用した試作シミュレーターを評価する.	A短期大学1年生88名（女性80名，男性8名）	方法：黒いゴム板に木の葉型のスポンジを貼り付けて女性性器を模した装着型シミュレーターを学生数に見合った数試作し、陰部洗浄の演習で使用後、質問紙調査. 結果：患者役体験では、28名（90.3%），看護師役体験では23名（74.2%）の学生が肯定的に捉えていた．装着感や使い勝手、洗浄のしやすさなどは否定的な意見が50%を超えた.

表２　分析対象文献一覧（受け持ち患者の状況に応じた技術）

カテゴリ	文献No.	文献名（西暦発行年）	著者名	研究目的	対象	調査内容（方法/結果）
受け持ち患者の状況に応じた技術		前掲書　文献No.5参照.				
	10	成人看護学実習前の看護技術演習の効果　実習終了後のアンケート分析より（2008）	石井 俊行ほか	実習前看護技術演習が臨地実習での援助に役立ったか，また今後，学内看護技術演習でどのような改善が必要であるかを明らかにする.	成人看護学実習を履修した学生40名	方法：　看護技術演習終了後に成人看護学実習に臨んだ学生を1群，他領域実習を1～2回済ませてから成人看護学実習に臨んだ学生を2群とし 結果：看護学生が成人看護学実習前に実習前看護技術演習を必要と考える演習項目は，「身体の清潔」「身体の可動・移動」「衣服を整える」「観察の技術」「排泄の援助」のカテゴリで，項目は清拭，洗髪，口腔ケア，手・足浴，体位変換，車椅子移乗，寝衣交換，バイタルサイン，陰部洗浄，オムツ交換で，実習前に実施した看護技術演習項目とほぼ一致していた．一方どちらともいえないと答えた１２．５％の学生は，「実際の実習と演習とは違う」ことを挙げていた.
	11	成人看護学実習における清潔・衣生活援助技術実施の実態　厚生労働省の示す水準1の項目に焦点をあてて（2007）	横田 栄子ほか	成人看護学実習において，学生が実施した清潔・衣生活の援助項目をどの程度体験し，どのように実施できているか実態を明らかにする.	3年課程看護専門3年生38名	方法：「清潔・衣生活の援助技術項目及水準」をもとに，入浴，清拭，手浴，足浴，陰部洗浄，洗髪，口腔ケア，整容，寝衣交換の9項目の援助の有無，学生の援助実施時の実際を単純集計した. 結果：成人看護学実習における清潔・衣生活の援助技術項目のうち，清拭，寝衣交換，陰部洗浄の実施が多い．陰部洗浄実施58.6％，おむつでベッド上70例．援助中，教員や看護師の指導・助言により学生が一人で実施できたのは29名，監視の下で学生が実施したのは19例，教員や看護師と一緒に実施したのは22例であった．便器でベッド7例，ポータブルトイレ6例，洋式トイレ16例であった.

表３　分析対象文献一覧（陰部洗浄実施の状況<経験値>

カテゴリ	文献No.	文献名（西暦発行年）	著者名	研究目的	対象	調査内容（方法/結果）
陰部洗浄実施の状況（経験値）	12	在宅看護学実習における看護学生が経験した口腔ケア（2013）	高橋 美砂子ほか	在宅看護学実習における「清潔援助」に関する5項目の経験状況を明らかにする.	看護学科3年生63名	方法：在宅看護学実習における「清潔援助」に関する5項目の経験数についての質問紙調査. 結果：「清潔援助」に関する5項目の経験数は，「主体的にできた」が約3～4割，「補助的にできた」を含めると6～7割が経験できており，特に「陰部洗浄」主体的実施：39.1%，補助的実施：32.8%，見学：26.6%，機会なし：1.6%「全身・部分清拭」で経験率が高かった.
		前掲書　文献No.2参照.				
	13	早期の基礎看護学実習における看護技術の到達状況（2009）	荻 あや子ほか	早期の基礎看護学実習における看護技術の経験状況と到達度を明らかにする.	1年次生126名	方法：質問紙調査（基礎看護学実習Ⅱ終了直後） 結果：80%以上が未経験の項目は「尿器介助」「便器介助」「P-トイレ介助」などで，学生は排泄の援助を必要とする患者を受け持つ機会が少なくなっていた．・60%以上が未経験の項目は,「臥床患者のシーツ交換」「ベッドから車いすの移動」「ストレッチャーへの移動」「オムツ交換」「入浴介助」「シャワー介助」「手浴」「陰部洗浄」「口腔ケア」「洗面介助」「洗髪」等の16項目だった.
	14	成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討（第二報）（2009）	中井 裕子ほか	成人看護学急性期実習における学生の技術体験の実情を明らかにする.	成人看護学急性期演習を履修した短期大看護学科3年生75名	方法：質問紙調査 結果：術後看護技術32項目中，実施80%前後の技術は術後患者の寝衣交換・清拭，循環・呼吸・腹部・創部の観察，陰部洗浄であった.
	15	学生が求める清潔援助技術の教育内容　臨地実習における学生の清潔援助技術経験状況をふまえて（2007）	上野 典子ほか	臨地実習における看護学生の清潔援助技術経験状況と，学内演習で学生が求める看護技術の教育内容を明らかにする.	関東甲信越地区の看護専門学校の卒業年次のすべての実習が終了した看護学生	方法：質問紙調査 結果：陰部洗浄の経験状況は，ベッド上オムツ使用92.2％と最も多く，ポータブルトイレ使用54．1％，トイレ使用44．8％ベッド上便器使用41.7％の順であった．・学生が学内演習で取り上げてほしいと希望する清潔援助技術は，1)寝衣交換84％2)足浴78.4％，3)ベッド上オムツ使用の陰部洗浄76％，4)爪切り，の順で，その理由として「実習で実施する頻度が高いから」が最も多く挙げられ，「難易度が高いから」「原理原則だから」があった.
		前掲書　文献No.11参照				
	16	卒業時の学生の看護技術に対する自信と臨地実習での学習体験との関連（2006）	武田 洋子ほか	看護技術全50項目における学習体験の頻度を調査し,知識面と技能面とで差があるか検討する.	臨地実習を行った学生100名	方法：,看護技術全50項目における学習体験の頻度を調査 結果：体験頻度と自信との関連では以下の12項目で有意差な相関が認められたのは「栄養状態の査定」「失禁時の援助」「入浴介助」「陰部洗浄」「酸素吸入療法」「気道加湿法」「意識レベルの把握」「呼吸の観察」「検体採取」「心電図モニター」「スパイロメーター」「医療事故防止」である.
	17	卒業時における清潔援助技術の習得状況（2004）	本田 久美ほか	卒業生の清潔援助技術の習得状況をプリセプター・卒業生が評価した結果から，基礎看護学教育における看護技術教育の現状と課題を検討する.	看護専門学校の卒業生14名 プリセプター14名	方法：①清潔援助技術の5項目（口腔ケア，陰部洗浄，洗髪，寝衣交換，清拭）について模擬患者を設定し，学生の実践を教員が5段階評価した．②卒業後3ケ月時に清潔援助技術の5項目について、卒業生は自己評価，プリセプターには卒業生の評価を依頼した. 結果：,陰部洗浄は段階4が多かった.

表4　分析対象文献一覧（セクシュアリティ）

カテゴリ	文献No.	文献名（西暦発行年）	著者名	研究目的	対象	調査内容（方法/結果）
セクシュアリティ	18	基礎看護技術演習での性同一性障害学生受け入れに関する調査（2013）	藤井 徹也 ほか	基礎看護技術演習における性同一性障害学生の受け入れの具体例について，インタビューを行い，その内容を検討する．	全国の看護師養成機関（701）校中，協力を得られた教員14名	方法：インタビューを行い，その内容を検討した． 結果：「清拭」「排泄(陰部洗浄含む)」などの単元で対応が必要であった．身体的性と同性の学生との実施時，自己認識の性と同性の学生との実施時の配慮　同じグループ，ペアになる学生への配慮も必要である
		前掲書　文献No.3 参照				
		前掲書　文献No.4 参照				
	19	看護教育研究 男性患者の陰部洗浄におけるセクシュアリティに関する教育の現状と課題（2010）	水野 昌子 ほか	セクシュアリティに関する看護基礎教育の示唆を得る．	女性看護師25名（20代24名，30代1名）	方法：学生時代から現在に至るまでの男性患者の陰部洗浄における体験などについてフォーカスグループインタビューを行った． 結果：①陰部洗浄の実施にともなう学生が持つさまざまな感情−学内演習：女性陰部ﾓﾃﾞﾙ装着体験に「驚き」「恥ずかしさ」を感じ，男性模型の洗浄をしていないと「実施の不安」があった．臨地実習：男性患者の性器を見たり，触れたりすることに対して「緊張」「驚き」「恥ずかしい」「強い抵抗感」を持っていた．②患者の気持ちを類推することにより生まれる感情−患者のプライベートゾーンを侵すかもしれないという「戸惑い」「患者は陰部洗浄になれていると思う」「技術に精一杯で患者の反応に気づけない」③陰部洗浄時に沸き起こる学生の感情の封印−「友人や家族に話せても，先生には話せない」「慣れなきゃ」「避けられない」「こういう仕事」「みんなやってる」「看護技術」「実習だから」と口にしてはいけないと思い，自分の感情を封じ込める．④期待する指導−陰部洗浄時，教員から，「初めてなのか確認」「実施前・後の気持ちの動揺に対するフォロー」を期待していた．　患者の陰部洗浄における状況に合わせた「具体的な指導」を求めている．教員によっては，「初回からはやらせない」「一人にしない」という学生への技術・気持ちの配慮を行う反面，洗浄時の学生の気持ちへの配慮がなく，患者の心理やセクシュアリティには触れず，「手順中心の指導」がなされる場合もあった．
	20	高齢者のプライバシーの意識「自己領域介入」 看護師と看護学生(未実習・既実習)の比較（2010）	谷田 恵美子 ほか	高齢者ケアにおけるプライバシーに関する「自己領域介入」の認識について，看護職と看護学生（実習経験の有・無）の比較を試み，高齢者ケアにおけるプライバシーに関する教育について検討する．	看護師92人，実習体験(高校の時の体験も含む)ある看護学生88人と実習体験のない看護学生78人	方法：2006年に高齢者のプライバシーについての認識を調査した． 結果：ケアは同性にしてほしい傾向が強い．その中で外部に見えている洗髪・足浴は異性でもよいが，陰部に近づくほど希望が同性の高くなっている．5.看護師は状況に応じて柔軟に高齢者のプライバシーを守っているが，実習体験のある学生はケアを優先し，プライバシーに関して甘い傾向がある．

痛などの身体的負担，羞恥心の軽減，ケア提供者の物理的な利便性等が選択条件となっていた，と報告している．また，陰部洗浄のタイミングについては，排泄などで汚れたときがほとんどを占め，臥床患者の清潔援助技術としては，「１回/１日」「毎日の保清」という記載にとどまっており，患者の状況をどのように判断したらよいのかといった学習につながりにくい，と主張している．（山本他，2013）．

②講義内容

陰部洗浄の講義内容に関する文献は延べ３件であった．

水野と福田（2011）の全国調査によれば，陰部洗浄の授業において，ビデオの提示とデモンストレーションの実施をクロス集計した結果，女性の陰部洗浄は，ビデオの提示とデモンストレーションの両方を５割の学校が実施していたが，男性の陰部洗浄は，ビデオの提示とデモンストレーションの両方を実施している学校は２割にとどまり，さらに両方とも実施していない学校が２割に上っており，女性重視の教育が展開されていたことが明らかにされている．

島村（2005）は，臨地実習で陰部洗浄を実施した学生の75％が，授業とは，使用する物品が違うと回答し，戸惑った学生が６割を占め，指導者への質問（71％）や，指導者の方法で実施（88％）し，対処したことを報告している．

③看護技術演習の内容・方法（時期）

看護技術演習の内容・方法に関する文献は，延べ５件であった．

水野と福田（2011）によれば，陰部洗浄の看護技術演習はほとんどの学校で実施されているものの，女子学生は，女性陰部モデル装着し，男子学生は男性陰部モデルを装着し，同性同士での演習が多く行われており，学生の８割は，異性の陰部洗浄を行っていない実態が明らかとなった．

太田と山本（2011）によれば，模擬便を使用した陰部洗浄，おむつ交換体験の看護技術演習の学習効果について，臨場感を実感しながら学ぶことができ，実践に活かすことができる教育方法であることが明らかになった，と述べている．

（２）受け持ち患者の状況に応じた技術との関連

受け持ち患者の状況に応じた技術に関する文献は，延べ３件であった．

臨地実習において，受け持ち患者に実施した陰部洗浄の方法は，紙おむつを使用しベッド上で行う方法が圧倒的に多かった，と報告されている（横田・飯泉・篠塚・長島・臼井・石井・鈴木・稲葉，2006）．

また学生は，看護技術演習で行う技術と実際の患者に対して行う技術の違いを感じており，看護技術演習が臨地実習で十分に活用できず，援助技術の困難さを臨地実習の中で体験していると報告している（石井・岡本・坪井・坂村・深堀・秋山，2008）．さらに，看護学生が，患者の状態に適した看護援助を実践するために，臨地実習前に看護技術演習を実施するにあたり，実習病棟の特殊性を考慮した事例や模擬患者を用いることに加えて患者の状態を具体化し，イメージできるような効果的な教授活動，工夫が重要である，と述べている（石井他，2008）．

（３）陰部洗浄実施の状況（経験値）との関連

陰部洗浄実施の状況に関する文献は延べ８件であった．

成人看護学実習における，清潔・衣生活の援助技術のうち，清拭，寝衣交換，陰部洗浄の実施が多く，陰部洗浄の実施は58.6%であった．さらに，基礎看護学実習Ⅱにおいて陰部洗浄を実施したのは92%であった，と報告されている（横田・飯泉・篠塚・長島・臼井・石井・鈴木・稲葉，2006；島村，2005）．一方で，看護系大学3年生の在宅看護学実習における「陰部洗浄」の経験について，主体的実施：39.1%，補助的実施：32.8%，見学：26.6%，機会なし：1.6%という報告もある（高橋他，2013）．以上のことより，陰部洗浄は，毎日頻回に行われる技術の一つであり，臨地実習での陰部洗浄の学習機会は多いと予測されるものの，学生が主体的に実施できる機会は限局されているといえる．

臨地実習での陰部洗浄の学習体験の頻度と看護技術に対する自信とには有意な正の相関が認められていることが明らかとなっている（武田・小林・寺田・田邉・中谷・北村・松本・巴山・古屋・大久保・上田・望月・渥美，2006）．

（4）セクシュアリティとの関連

「セクシュアリティ」は，いわゆる生物学的な性と生殖に関するもののみでなく，人間関係における社会的，心理的側面，患者および学生の羞恥心にも着目したものであり（水野・福田，2012），該当した文献は，延べ5件であった．

水野と福田（2010）によると，学生は，看護技術演習において女性陰部モデル装着体験に「驚き」「恥ずかしさ」を感じ，男性模型の洗浄をしていないと「実施の不安」といった感情を持ち，さらに臨地実習においては，女子学生は，男性の性器を見たり，触れたりすることに対して「緊張」「驚き」「恥ずかしい」「強い抵抗感」を持っていたことが明らかとなった．これらのような感情を持ってしまうことを，「友人や家族に話せても，先生には話せない」「慣れなきゃ」「避けられない」「こういう仕事」「みんなやってる」「看護技術」「実習だから」と口にしてはいけないと思い，自分の感情を封じ込める傾向にある．教員によっては，陰部洗浄時に学生のもつ感情への配慮が無く，患者の心理やセクシュアリティには触れず，「手順中心の指導」がなされる場合もあり，セクシュアリティに関する具体的指導や学生への配慮の必要性を唱えている．

また，近年では生物学的性別と，性の自己認識が一致していない性同一性障害の学生の存在が少なからず見受けられる．性同一性障害の学生は，演習中陰部モデルの装着には抵抗感は無かったが，肌の露出を隠したい傾向にある．また，性の自己認識に基づいたグループでの演習を行ったことを報告している（藤井・玉腰・中山・大林・田中・篠崎，2013）．

Ⅵ．考察

1．陰部洗浄に関する文献数及び年次推移

陰部洗浄に関する論文種類の64.15%が解説および解説/特集で占められている．陰部洗浄は，性別，身体可動性や皮膚障害の有無，膀胱留置カテーテルの有無等，あらゆる状況の患者に即した方法を考慮し，実施しなければならない難易度の高い技術である．その手技や根拠が十分周知されていない部分を補完し，技術習得の一助となる学習教材のニーズがあるためと考えられる．

2．陰部洗浄が困難とされる要因

（1）教育内容・教育方法との関連

看護技術教育において使用されるテキスト

には，陰部洗浄は清潔の項目に包含されている．清拭の手順の中に組み込まれているものもあれば，項目立てをして，陰部洗浄の方法を詳細に示しているものなど，テキストにより相違がある．また，使用物品が教科書に記載されている物品と，実際に臨床で使用されている物品には違いがあり，技術の準備段階で学生の戸惑いが浮かび上がってくる．陰部洗浄は，難易度の高い技術であり，習得に時間を要すると考えられるが，清潔の項目の授業時間の中では清拭などの援助技術もあり，看護技術演習時間や，実習前の技術トレーニングの時間の捻出が必要だと思われる．さらに，排泄援助技術時に，患者の事例設定としておむつを使用している患者の排泄後の陰部洗浄を組み入れることで，清潔の単元と排泄の単元で重複して演習するなど，意図的に授業を構築していく必要があると考える．

また，看護技術演習では，便器を使用して実施する方法が主体となっており，おむつを使用した陰部洗浄はテキストで教授するにとどまっている場合が多い．しかしながら，臨地実習で実施する陰部洗浄は，おむつを使用した方法が多数を占めており，学内での教育と臨地との乖離がうかがえる．したがって，学内演習や実習前の陰部洗浄の技術練習の方法は，臥床患者でおむつを装着している患者や異性の患者をはじめ，臨地を意識し，想定されるあらゆるシチュエーションを考慮し，確かな基礎的技術を基に応用できるよう，習練する必要があると考えられる．

（２）受け持ち患者の状況に応じた技術との関連

高田（2005）は，「学内演習では，モデル人形を用いて，あるいは患者役を教師もしくは学生が演じる擬似的想定で技術を学ぶ．（中略）臨地実習で学生が体験することになる患者の状態・反応は，模擬のそれとは比較するべくもない．」と述べ，学生が臨地実習において困惑するのはおかしい現象ではないとしている．陰部洗浄が必要とされる患者は，疾病治療上の制約や身体可動性の障害により自己で陰部の清潔が保持できない状況にある．性別により，陰部洗浄の方法・留意点が異なるだけでなく，尿管カテーテル留置，おむつの装着，下肢の拘縮や関節可動域の縮小，腰部の挙上ができない，麻痺等，患者の状況は様々である．さらに，陰部洗浄だけ行えばよいという状況は皆無に等しく，排泄の援助技術である便器の挿入・除去，おむつの脱着，排泄物の処理，衣生活の援助技術である寝衣交換，清潔の技術である全身もしくは部分清拭等同時に援助することが求められる場合がある．陰部洗浄と関連のある排泄援助技術の演習では，便の拭き取りに時間を要し，かつ拭き取りも不十分であったこと，汚染した手袋で清潔なものを触れ，汚染物を拡散させたという報告がなされている（都甲・山本・定金，2011）．臨地実習で患者にケアを実施するにあたっては，根拠に基づいた基本看護技術を踏まえた上で，その時々の患者の状況に即し，応用・複合した技術，かつ患者の安全安楽に留意し最も負担の少ない方法で実施しなければならない状況下におかれている．それゆえに，学生は患者を目前にした時に，患者のあらゆる状況を判断し，最も適した具体的方法が考えにくく，指導者に質問したり，指導者の方法で実施する場合が多いと思われる．臨地実習で出会う想定以上の患者の状況が学生を不安にし，主体的に実施できない要因になっていると推察される．

大滝と阿部（2012）は，看護技術演習での

看護師役，患者役を学生同士で行うと，友人関係から相手が援助しやすい患者役を演じてしまう傾向があり，その先の臨地実習で十分に力が発揮できないおそれがあることを懸念している．看護技術演習時では，一事例にとどまらず，臨地を意識したあらゆる事例を想定し，患者役となった学生は，患者に徹することが肝要である．また，藤岡と野村（2010）によれば，教育技法としてのシミュレーションの一つに模擬患者を挙げており，「専門的知識に通じ演技力のある演者が患者を演じて，学生の問題解決や技能習得を援助する，と述べている．患者の持つあらゆる特徴，病歴，身体所見のみならず，患者特有の態度，心理・感情的側面に至るまで可能な限り完全に模倣するよう訓練を受けた模擬患者を導入することも学生の思考の一助になるものと考える．

（3）陰部洗浄実施の状況（経験値）との関連

陰部洗浄は，それを必要とされる患者には，毎日頻回に行われる技術である．学生にとっても，臨地実習では必ずといっていいほど経験する確率の高い技術であると推察される．

しかし，看護基礎教育の充実に関する検討会報告書（厚生労働省，2007）で示された「陰部の清潔保持の援助」の卒業時の到達度は，「Ⅱ：指導のもとで実施できる」となっているが，臨地実習での経験は，先行研究では高値であるものの，補助的実施や見学にとどまっている学生も存在している．陰部洗浄技術およびそこから派生する他の同時に行われる技術，患者の安全安楽，患者との関係性も相まり，臨地実習での主体的な実施が困難であり，卒業時の到達水準に至るための経験値が不足していると考える．

臨地実習での陰部洗浄の学習体験の頻度と自信とには有意な正の相関が認められていることが明らかとなっている（武田他，2006）．舟島（2013）は，患者の安全や安楽を確保するために技術を繰り返し練習することが必要不可欠であり，看護技術演習時間外に反復練習に活用できるように教員が学習環境を整備する必要性について唱えている．以上のことから，陰部洗浄の看護技術においても，看護技術演習内容・方法の検討も含めて，臨地実習において看護実践能力を養うべく，教員・臨地実習指導者は，学生が主体的に体的実施できるよう，学内での学習環境および実習環境を整えていくことで，経験値が高くなり，学生の看護技術に対する自信が深まってくると考える．

（4）セクシュアリティとの関連

陰部洗浄は性別で構造・特徴が異なる部位を視覚的に捉えたり，触れる必要がある．看護技術演習において，異性でなくとも，女子学生同士でも陰部モデルを装着するということだけで羞恥心がある．そのような状況に加えて，水野他（2012）の全国調査で学生の8割は，異性の陰部洗浄の校内演習を行っていなかったことが明らかとなった．異性の陰部洗浄のトレーニングを行わないまま臨地実習で患者にケアを実施することは，学生にとって衝撃が大きく，自身のセクシュアリティが揺らぐことになると推察される．したがって，陰部は排泄器官だけでなく，陰部への刺激で身体反応が起きる生殖器官であるという事も考慮して教育を行うことや，女性偏重の教育を踏襲していくのではなく，異性の陰部洗浄のトレーニングを積んでいくことが肝要である．

また，陰部洗浄の対象となる患者は，高齢者が多く占めると予測されるが，必然的に男

性患者も女性患者も存在する．高齢者にとっても陰部洗浄は，同性を希望する傾向が強いことが明らかとなっている（谷田・大橋・遠藤・氏平・竹下，2008）．したがって，ケアを実施するにあたっては，性別だけでなく，いかなる年齢層の患者であっても，陰部洗浄の援助を受ける患者の羞恥心に配慮する必要がある．

さらに近年では，性同一性障害の学生の存在も明らかとなってきている．心理的性別と身体的性別が異なるため，看護技術演習を行う前に当該学生だけでなく，同じ演習グループの学生にも意思確認をする等の演習対応への配慮が必要であると推察される．

Ⅶ．おわりに

学生にとって陰部洗浄という看護技術は難易度が高い上に，経験する機会が少なくなっている．さらに，自身や患者のセクシュアリティの問題もあり，今後の学内での教育内容や教育方法，臨地実習での指導の在り方について再検討していく必要性が示唆された．

【文　献】

浅井 直美，三木 園生，岩瀬 早央理，佐々木 かほる(2009)．日米における陰部洗浄の看護技術テキストに関する研究　看護技術の概念規定を構成する要素を用いた内容分析．桐生大学紀要，(20)，33-41.

藤井 徹也，玉腰 浩司，中山 和弘，大林 実菜，田中 悠美，篠崎 恵美子(2013)．基礎看護技術演習での性同一性障害学生受け入れに関する調査．医学と生物，157(6-3)，1271-1277.

藤岡完治，野村明美(2010)．わかる授業をつくる看護教育技法３　シミュレーション・体験学習．3，医学書院，東京.

舟島なをみ(2013)．看護学教育における授業展開　質の高い講義・演習・実習の実現に向けて．132－133，医学書院，東京.

石井 俊行，岡本 裕子，坪井 敬子，坂村 八恵，深堀 美紀子，秋山 智(2008)．成人看護学実習前の看護技術演習の効果　実習終了後のアンケート分析より．日本看護学会論文集：看護教育，(38) 305-307.

厚生労働省(2003)．看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書．平成15年３月17日.

厚生労働省(2007)．看護基礎教育の充実に関する検討会報告書．平成19年４月16日.

水野 昌子，福田 博美(2012)．看護基礎教育における性に関する学習　セクシュアリティの視点から陰部洗浄の授業内容を分析する．愛知教育大学保健環境センター紀要，10，33-41.

水野 昌子，福田 博美(2010)．看護教育研究男性患者の陰部洗浄におけるセクシュアリティに関する教育の現状と課題．看護教育 51(2)，134-139.

文部科学省高等教育局医学教育課(2002)．大学における看護実践能力の育成の充実に向けて，看護学教育の在り方に関する検討会報告，16-17.

奥 百合子，臺藏 倫代，鏡宮 ゆかり，小池 敦(2012)．臨地実習において看護学生が経験した看護技術に対する緊張．岐阜医療科学大学紀要，(6)，121-127.

大滝純司，阿部幸恵(2012)．シミュレータを活用した看護技術指導．120，日本看護協会出版会，東京.

太田 淳子，山本 君子(2011)．模擬便使用による高齢者のおむつ交換体験からの学生の

学び　看護技術演習終了後のアンケート調査を通して．東京医科大学看護専門学校紀要，21(1)，19-29.

島村 純子(2005)．基礎看護学実習における清潔援助の実施状況および認識　基礎看護学実習終了後のアンケート調査より．東京厚生年金看護専門学校紀要，7(1)，20-26.

高田早苗(2005)．看護基礎教育の現状と新人看護研修―看護基礎教育の立場から．日本看護協会出版会（編）：厚生労働省「新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会」報告書－新人看護職員研修の充実を目指して．69，東京：日本看護協会出版会.

高橋 美砂子，内田 真理子(2013)．在宅看護学実習における看護学生が経験した口腔ケア．日本口腔ケア学会雑誌，7(1)，69-72.

武田 洋子，小林 たつ子，寺田 あゆみ，田邉千夏，中谷 千尋，北村 愛子，松本 美富士，巴山 玉蓮，古屋 洋子，大久保 ひろ美，上田康子，望月 美鶴，渥美 一恵(2006).卒業時の学生の看護技術に対する自信と臨地実習での学習体験との関連．山梨県立看護大学短期大学部紀要，11(1)，69-80.

谷田 恵美子，大橋 千代美，遠藤 明美，氏平美智子，竹下 幸子(2008)．高齢者のプライバシーの意識「自己領域介入」 看護師と看護学生（未実習・既実習）の比較．岡山県看護教育研究会誌，32(1)，18-28.

都甲 裕美，山本 晃代，定金 直美(2011)．排泄援助技術実践報告．旭川荘研究年報，42(1)，33-38.

山本 洋子，松原 美紀，小平 京子，笠岡和子，松尾 潤子，柳澤 恵美，神山 幸枝(2013).
床上臥床状態にある患者への看護技術「陰部洗浄」に関する学習教材の状況．関西看護医療大学紀要，5(1) 37-41.

横田 栄子，飯泉 良枝，篠塚 恵美子，長島文子，臼井 陽子，石井 美幸，鈴木 妙子，稲葉 麻美(2006)．成人看護学実習における清潔・衣生活援助技術実施の実態　厚生労働省の示す水準１の項目に焦点をあてて．成田赤十字病院誌，9，70-72.